

令和 3 年度

事 業 報 告 書

社会福祉法人 内日福社会

## 目 次

### 事業報告

- ・ 本部 P.3
- ・ グリーンファーム P.4
- ・ 第2グリーンファーム蓮 P.7
- ・ なでしこ P.10
- ・ ぽけっと P.11
- ・ ぱれっと P.14
- ・ びれっじ P.16

## 2021(令和 3)年度 事業報告

本部

令和 3 年度の給付費収入総額は約 1 億 8 千万円となり、令和 2 年度と比べ約 5 百万の増となった。

その内訳をみると・グリーンファームと第 2 グリーンファーム蓮・びれっじか軒並み増収となった中、児童福祉事業を行うぼけっと、ばれつとについては・コロナと制度改正による加算消失のため収入に大きく影響し、合わせて約 1 千万円の減収となった。

また支出に関して特に人件費については、処遇改善加算の収益を見直し・職員への配分方法の改善をおこなった。

コロナ禍に関する影響も早 2 年を経過し、私達施設関係者を含め、その対応は既に常態化してしまっている。マスクの着用もさることながら、他の衛生業務が本来の支援業務にプラスして行われるようになったため、支援スタッフや利用者さん自身にもじわじわと心的ストレスが溜まっている状態である。

1 日の業務時間のうちコロナ対応に費やす時間は・業務時間全体の約 8%を占め(R2 年度厚労省統計による)ており、特に医療・福祉業については顕著にみられるようである。

このような現状の中で・法人のスタンスとして「With コロナ」としての認識を共有し、限られた支援時間を効率よく使う工夫をしていくことが必要だと感じた。

リモートワークの活用などは出来る部分から積極的に対応して行けるよう促してきたが・ネット環境の不備(地域格差)などによりなかなか足並みが揃わず・令和 4 年度にはやっと整備される目途がたった。また、各施設における PC 使用時の安定的確保・社内ネットワークの構築による業務効率化などをおこなった。

ビール事業については・設計もほぼ決定し・現在は建物の基盤整備を行う段階である。また・施設内に設置するものや建物の構造などを微調整しながら、予算内でおさまるよう再検討をおこなっている。

## 2021(令和3)年度 事業報告

グリーンファーム

### ・事業概要

施設外就労加算(1回100単位)の廃止や移行支援の報酬単価減もあり、運営的に厳しい1年となったが利用者増により訓練給付費は増えた。

### ・就労移行支援

就職支援について、令和3年度も2年度と同じく1年間での就職定着者数(年度内に就職から6ヵ月経過する人数)は3名、就職者についても3名となり目標としていた定員の半数は達成できた。

令和3年度は目標95%に対し約103%となった。

これは総合支援学校在学中の暫定評価を積極的に受け入れた結果でもあるため、送迎等の課題もあるが今後も前向きに考えたい。

職場定着支援について、就職初期に重点的にフォローアップを行い定着につなげることができた。OB会は新型コロナウイルスの影響により中止とした。

### ・就労継続支援B型事業

令和3年度は96.4%となり、定員を25名に増やして約1年半で利用率が上がってきたのでこれを維持向上していく。

工賃について、年度末の特別手当を含め実績月額平均20,195円となり、昨年(21,654円)から減少となった。要因としては草刈り等の外勤作業への参加利用者が減ったことで受託量が減少したことや利用者数の増加によるところが大きい。報酬単価への影響は無かったが支給額の減少が続いているのでクラフトビール事業開始までの間、金額を維持できるように実施可能な外勤作業は受けていく。

健康面や生活面について、新型コロナ感染対策についての助言等を行った。利用中や送迎中の行動や感染対策について徹底、ワクチン接種への助言や接種申し込み等のサポートも行った。幸い利用者の中に感染者はなかった。必要に応じて家族と連絡をとり安定利用に向けた調整等を行った。

### ・就労支援活動

#### ①農地環境保全事業

農事組合法人うついの草刈作業は面積を減らして実施。その他契約中の業務については例年通り行うことができた。

## ②住居環境保全事業

1 件の定期清掃が契約終了となる。その他は継続実施した。

## ③農産物生産・販売・加工・その他

栽培計画通り実施。年々経費も上がってきているため販売価格について検討し、販売量や時期を考慮した上で利益を考えた設定とした。ホップの栽培も 2 年目に入ったが、輸送に時間がかかりアメリカからの苗の状態が悪かったため国内のホップ生産農家から急遽苗を仕入れ、時期は遅れたが約15kgのホップを収穫することができた。

## ④酒類販売・クラフトビール事業

和歌山ブルワリーでの委託醸造により、内日産ホップを使用した限定商品を含む計4種類の発泡酒を販売開始。令和3年4月～令和4年3月の販売数量は約 3,050L となり、年間目標としていた3KL(3,000L)を達成した。免許上小売店等への卸販売ができない中、飲食店と直接販売で目標数値を達成できたことは自信になり、今後醸造開始後の最低醸造量である6KL に向けて良いスタートが切れた。ニュースや新聞等に取り上げられたこと、数は少なかったが地域イベントへの販売参加により事業所の取り組みや障害者理解への啓発等の周知につながったと感じるため今後も積極的に進めていく。

酒類製造に向けた研修も委託醸造時に行っており知識と技術の習得に向け継続中。

事業別売上一覧(単位:円)

	農地環境保全事業	住居環境保全事業	加工・その他	酒類販売事業	合計
令和3年度	9,400,052	386,500	2,131,268	4,327,986	16,245,806

## ・共通事項・その他

### ①年間行事

別紙2参照。新型コロナウイルスの影響により中止となったが、可能な形を検討し感染対策を行った上で一部開催した。

### ②地域活動

収穫祭は中止。まちづくり協議会と内日小中学校合同の地域清掃活動に職員利用者と参加。また内日中学校の職場見学を受け入れグリーンファームの取り組みを紹介した。

### ③会議・研修等

これまでの定期会議と別に利用者のケース会議を行うため月2回の職員会議を行った。外部研修や会議についてはオンライン可能な場合は活用して参加した。

#### ④クラフトビール事業スケジュール

##### 醸造所

令和4年5月11日 建築契約(金剛住機株式会社)

建築確認申請提出(建築鈴木浩介設計事務所)

5月中旬 敷地内樹木剪定工事

5月24日 地鎮祭

6月上旬～ 基礎工事開始

8月 建物工事開始

12月 竣工・完了検査 醸造機器設置工事

税務署(酒類製造免許)申請

令和5年4月 醸造所稼働

##### 販売

醸造開始までは引き続き(株)吉田(和歌山ブルワリー)にて醸造研修を兼ねた委託醸造により、市内を中心とした飲食店への販路拡大と小売店への周知を図る。

## 2021(令和 3)年度 事業報告

第2グリーンファーム蓮

### ・概要

令和 3 年度を終え、1 年間の結果を集計したところ、月平均利用者数は、18.4 人、平均工賃月額額は、23,632 円であった。この年間を通じての平均値を見ると、僅かながらも利用者の数は増えているように見えるが、実際には、年度の後半に退所者や入院による長期離脱者等が相次ぎ、第 4 四半期の 1 月～3 月の間だけを見ると、月平均利用者数は 16.7 人とどまっている。※**参考** 令和 2 年度については、それぞれ、17.4 人、17,965 円

他方、新型コロナの影響も少なからずあって、令和 2 年度には目標としていた 2 万円代の平均工賃を大きく下回る結果となったため、安定した収入源を確保すべく、令和 3 年度からは、新たに市の考古学博物館館内の清掃作業にも取り組んだ。

幸い、利用者・スタッフの協力と努力のお陰で、なんとか 1 年間無事この任をやり遂げることが出来、これに自転車業界の好況も重なって、再び平均工賃も 2 万円代まで回復することが出来た。利用者、スタッフ双方にとって、この経験は大きな自信、転機となるものと思う。

引き続き現員利用者のニーズに配慮しつつ、将来的なニーズも見極めながら、適時必要な見直しを行って、多くの方に興味・関心を持って頂けるような事業所へと変革出来るよう、努力の予定。

### ・就労支援活動

年度当初、室内軽作業については 200 円の時給設定でスタートしたが、自転車部品の仕事が好調に推移し、想定以上の収入があったことから、下半期からは(年度末までの暫定的な措置として)時給設定の見直しを行い、400 円まで引き上げて、利用者に分配・還元した。

一方で、利用者やスタッフが処理できる仕事量と配置には限界があるので、年度途中で下記の通り一部仕事を整理した。

#### (1)室内軽作業

##### ①自転車部品組立

新型コロナが世界経済に多大な影響を与えている中、自転車業界にあっては、逆にこれが追い風となっているようであり、その一部を担う我々にとっても、これは低迷しつつあった収入回復への大きな追い風となった。結果的に、令和 3 年度の自転車部品関連の収入は、ほぼ 500 万円に達し、過去最高の売上高となった。

##### ②釣り用鉛封入作業

昨年秋に本社が人工島(長州出島)に移転し、その影響で一時的に依頼が減ったものの年末までには以前の流通に戻り、その後も順調に依頼がある。収入、月の売上としては、16,000 円程度と決して大きくはないが、これを得意とし、活躍されている方、合間合間のこ

の作業を楽しみにされている方も少なからずおられるため、今後もこれを継続の予定。

### ③生鮮食品用トレーウレタン貼り

年間を通じてほぼ切れ間なく仕事があり、月平均で 20,000 円強の売上はあったが、自転車部品の仕事が繁忙となったこと、また、これと並行して初めて引き受けた博物館の清掃作業をなんとしても軌道に乗せる必要があったため、検討の結果、年度末をもって、この仕事をお断りすることとした。

### ④米の販売

30kg×270 袋分の内日産コシヒカリを回して頂いたが、上述した経緯から、思うように販売・営業に注力することが出来ず、先頃ようやく完売に至ったところ。

とはいえ、年明けから大幅に値下げして、なんとか完売することが出来たというのが実態である。

これとは別に、重い米を運ぶことが出来る利用者も年々減っており、スタッフの負担が増大していることから、今年度をもってこれを終了することとした。

### ⑤その他の室内軽作業

引き続き、地域の皆様にもご協力も頂いて、アルミ缶の回収、リサイクルも行ってきた。

## (2)施設外作業

### ①草刈り・清掃作業

これまで、室内軽作業と並行して草刈りや除草等の野外作業も引き受けてきたが、利用者の現状・適正とマッチしなくなったため、順次縮小・整理を進めてきたところ。昨年秋の水道局関連施設(黒井)と年度末の前野不動産管理地(生野町)の草刈り完了をもって、この仕事もお断りすることとした。

なお、安養寺寺域の維持管理については、引き続き可能な範囲で協力の予定。

### ②館内清掃作業

入札を経て、令和 3 年度より初めてこれを引き受けることとなった。スタッフ 1 名と利用者 3 名でユニットを組み、月・水・金・土を基本とする週 4 日の作業。概要でも触れたように、お陰様で1年間なんとかこれを無事やり遂げることが出来たので、令和 4 年度からも引き続きぜひこれを担当させて頂き、当面、これと自転車部品を主とする室内軽作業との 2 本立てでの活動を見込んでいる。

## ・年間行事 その他

長引くコロナ禍にあって、年度当初に企画して利用者に案内していたものの、残念ながら中止となったものも随分とあった。以前のような利用者とスタッフ全員が揃って出かけるような企画は難しくなっているが、そんな中でも可能限り利用者の楽しみや気分転換の機会は提供したいと考え、随



時、少人数での外出を企画・実施してきたところ。限られた機会ではあるが、利用者個々の思いや希望をお聴きして、可能な限りそれに沿えるよう複数の企画(行先)を提示し、その選択肢の中から、利用者自身に選んでもらえるよう工夫・配慮した。

#### ・職員研修

将来的な役割や役職の移譲も見据え、それぞれの経験年数や適正、課題に応じた研修を適時受講出来るよう配慮したつもりだが、まだまだその機会は充分とはいえない状況。更なる充実に向け、法人内事業所間の連携も強化したいところ。

・事業実施概要

外部サービス利用型共同生活援助事業

利用定員8名

職員:管理者1名

サービス管理責任者1名

世話人2名

令和3年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、PCR検査、抗原検査の実施、検温、手洗い、消毒、マスクの使用、不要不急の外出を控えるなど、さまざまな配慮が求められ、体調管理に細心の注意を払った。

また60歳代の利用者が養護老人ホームに移られたが、コロナ禍の為、予定どおり進めることが困難なこともあった。その後30歳代の方が利用開始となり、年度末において定員8名の利用となった。利用者の障害種別は精神障害と知的障害で30歳代から60歳代である。高齢化が進み、腰痛など加齢に伴う症状、生活習慣病やアレルギー疾患のある方への対応が必要となった。

体調管理、余暇活動、食生活、衛生面、身の回りことなど日常生活に関することにおいて支援を行なっている。特に居室の片付けや掃除はプライバシーに配慮しながら支援を行なった。日頃から細やかな声掛けをしてコミュニケーションをとり、気になっていることや困っていることなどを気軽に伝えやすい雰囲気をつくるように心がけた。

利用者は日中活動としてデイケアや就労支援施設を利用されており、各関係機関との連絡調整を行った。また行政機関や病院、家族との連絡調整、通院同行、各種手続の支援を行った。

社会福祉協議会の権利擁護事業を利用されている方もおり、連携のもと金銭管理を行った。

施設外研修、法人内研修に参加することで障害特性の理解、虐待防止など支援のスキルアップを図った。毎月世話人ミーティングを実施し利用者への共通認識を持つことを心がけた。

## 2021 年度(令和 3 年)事業報告書

### 地域児童福祉事業所 ぽけっと

#### ・事業実施概要

児童発達支援事業、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援事業の多機能で事業展開をおこなった。

報酬改定があり、放課後等デイサービス事業の単価の下がり幅が大きく加算も減った。また、コロナの影響で自粛するご家庭や休校などにより、利用率も平均80%台と伸びず、更に市より定員 10 名を超えないようにとの通達があり、新規の利用を増やしにくい状況だった。立ち上げた保育所等訪問支援事業も、コロナにより、保育園等への出入りが制限され、思うように件数をあげることができなかった。

ただ、児童発達の単価は加算も合わせると前年度より少し増えたため、全体でみると収益としてはマイナスにはならず開所することができた。

#### ・児童発達支援事業(合わせて定員 10 名)

- ・営業時間:月、火、木、金 9:00～13:00 / 火、木、金 就園後～16:30
- ・利用者登録:31 名
- ・移行状況:新規就園 3 名 発達センター通園 0 名  
就学 7 名

#### ・主な行事

6 月、1 月	地震、水害避難訓練
7 月、8 月	水遊び、感覚遊び
10 月	芋ほり

- ・イベント:B&G 財団主催 『体験格差解消事業』カヌー体験

保護者の方が精神疾患などで不安定な中子育てをされていることも多々あり、子どもたちが特性からの苦手さだけでなく、ただただ経験不足ということを感じるようになってきているように思う。なので、五感を使った体験も取り入れたプログラムも提供する。また、地域の中で自分らしく豊かに生きていくために、社会性の第 1 歩として、まず『人を見る(意識する)！』そうすると安心した、楽しかったという経験も遊びを通して行うように心がけている。

社会性が育ち、更に自分の思いを伝えられるようになり、見通しが持てることで就園、就学の新しい環境にもスムーズに移行できたと実感している。

#### ・放課後等デイサービス事業(合わせて定員 10 名)

・営業時間:月、水 下校後～17:00

1、3 土 9:00～13:00/13:00～17:00 2、4 土 10:00～16:00

・利用登録:46 名

・移行状況:就職 2 名

・イベント:B&G 財団主催 『体験格差解消事業』に参加

カヌー、マウンテンバイク、火起こし体験

コロナ禍で思うように出かけたりできず、制限があったりする中で、家での過ごし方を見直す機会になった。家の中でできる余暇の過ごし方、お手伝い、などをどう工夫して行うかご家族と話してきた。ぽけっとでできたことを『家でもできた!』につなげられるように努めた。また、やりたいことができないのはコロナのせい で終わるのではなく、どうしたら安全にできるのか、子どもたちと日々一緒に考えている。

#### ・保育所等訪問支援事業

・訪問支援員:2 名

・訪問回数:1 件に対し月 2 回程度

・訪問実績:登録 3 名

5 月から事業を開始したが、コロナで予定通りの日程で訪問できないことが続いた。

また、市内に訪問支援事業自体の認識がなく、訪問に対して受け入れてもらえない園もあった。そのため、ゆっくりなスタートではあったが、その分、しっかり先生方とコミュニケーションを取りながら進めていくことができた。1 年かけて『来てもらって先生たちの自信がついた』『子どもたちが落ち着いた』『ぽけっとを信頼しているからいつでも見に来て』など言ってもらえるようになった。保護者の方からも『園の様子も分かって安心した』『就学に向けて、何を学校に伝えたらよいかわかってきた』と言ってもらえている。

保護者と園、そしてこれから行く園や小学校への懸け橋になれるよう、努めている。

#### ・地域活動支援センター基礎的事業(日中一時支援)

地域活動支援センター基礎的事業は、人員配置の関係もあり行っていない。

#### ・会議

定例ミーティング…毎週 1 回 シフトと利用者の確認 留意事項の共通認識

ケース会議 …学期に1回

関係機関ケース会議…計画相談におけるケース会議、ほかに連携会議

•啓発事業

オンライン学習会の開催…保護者／関係者の理解を深めるため  
自治会掃除に参加

•その他福祉活動

関係機関との連携会議に参加

•スタッフ研修

保護者学習会への参加

広域学習会・専門的学習会への参加

コミュニケーション技術の習得

自主研修会への参加

## 2021 年度(令和 3 年)事業報告書

ばれっと

### ・事業実施概要

全国的な放課後等デイサービス事業所の充実に伴い、療育を必要とする子どもたちの居場所が繋がりやすくなった一方で、療育の在り方、支援の質の向上、関係機関との連携の強化が一層求められるようになった。

令和 3 年度からの法改正に伴い、基本報酬と加算の体系が大幅に変更された。新たに専門的人員(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・心理指導担当職員・国リハ視覚障害学科履修者)の配置が求められた。ばれっとに専門的入員の配置はなく、加算報酬の減額となる。

新型コロナウイルス感染拡大により、市内の学校での休校や学級閉鎖が相次ぎ利用率の低下があった。(1日平均令和 2 年度 9.3 人令和 3 年度 8.8 人)

コロナ渦でも子どもたち、ご家族の方が安心してご利用できるように感染症対策の徹底を強化した。新たに感染防止委員会が設置されるため B C P の策定や事業所内での取り組みについて法人全体で協議しながら対応していった。

療育におけるサービスの質の向上のための専門性知識と技術の強化は必須課題であり、研修とスタッフ同士での協議を重ね、関係機関(教育・医療・福祉・相談等)との連携を図りながら事業展開をしていった。

療育活動では、個別の療育を日々スタッフ同士で工夫し、また体験格差体験事業への参加が 2 年目となり、カヌー体験や火起こし体験に加えマウンテンバイク体験など新しい事にもチャレンジしていった。

保護者サロンは初めてリモートでの開催を行ったが、交流できる機会を安全に提供できる事とその操作方法も保護者の方と練習でき、活動の発信方法が変化していった。

日々の業務と合わせて長引くコロナ対策の中、職員の働きやすい職場環境とメンタルヘルスケアなどのサポート体制の強化を行った。

### ・事業内容

日々の療育では、子どもたちが好きなことや得意なことを生かしながら、自分で分かる事や自分でできる事を増やし、コミュニケーションの方法や必要なスキルを学ぶ。

将来の豊かな暮らしのために'今、出来ること(学び)は何か?'と一緒に考え、子どもたちのライフステージに添って必要な育ちを経験する。

#### 1)放課後デイサービス事業

月一土 9:00-17:00 定員 10 名

(平日:総合支援学校 土曜日:地域の学校・支援級)

利用登録 76 名

小学生 25 名

中学生 36 名

高校生 15 名(令和 3 年度卒業生 3 名)

## 2)研修・会議

スタッフの知識・技術の向上、利用者のニーズに応じた支援に取り組めるための研修会に参加(リモート)

スタッフの共通認識を図り、日々の取り組みのための確認、協力体制の強化"連携のための会議(・ミーティング・・・月 2 回"ケース会議...月 2 回)

- ・ 関係機関連携会議・・・計画相談の呼びかけによる担当者会議に出席  
個別支援計画作成のための会議・面談
- ・ 自立支援協議会・・・子ども部会児童適所分科会

## 3)啓発事業

保護者サロン開催

## 4)地域の福祉活動に参加

ライトアップブルー(自閉症啓発)

アースデイ関門

馬関まつり愛のひろばに参画

オレンジリボンタスキリレーに参画

赤い羽根共同募金活動に参画

福祉フェスタに参画

※全て中止

令和 4 年度は地域の福祉活動の少しずつ再開が始まっている。

安全対策に徹底しながら活動への参加を目指す

## 2021(令和3年度)事業報告

びれっじ(相談)

### ・事業実施概要

新しく事務所を借り、同時に山口県発達障害者コンサルテーション強化事業西部エリアマネジャーを業務委託し、相談支援専門員2名に相談員2名事務員1名の体制でスタートした。途中法人内移動や転出があり、相談支援従事者2名相談員1名事務員1名で事業を実施した。

相談対象、内容は、幼児から大人まで、生活リズム・学校生活・就労・生活支援と生活全般にわたっており、かつ感染症拡大防止・予防のため、自粛も丸2年、常に緊張の中で、対面の面談を実施しながら、安全に生活しつつも楽しくストレス少なく生活することの理解と実践に努めたつもりである。

専門的な知識や支援のスキル向上のための自己研鑽、関係機関との連携が必要であり、リモートの環境も整え、リモートでの研修や交流会等も積極的に実施した。

自立支援協議会では、こども部会と通所分科会、生活介護部会、相談部会に属し、生活介護部会、通所分科会で事務局としての企画・連絡・運営に携わってきた。

昨年度は、増える児童発達支援事業所や放課後等デイサービス事業所に新規参入ストップがかかり、質の向上のための取り組むに務めた(講座などの開催等)が、一朝一夕に育つことは難しく、また、コロナ禍で不登校・行きづらい子どもたちも増え、その対応に、事業所への指導助言も増加した。

生活介護部会においては、支援の充実とそのためのスタッフの確保について、研修協議を継続している。生活介護部会においては、もっと暮らし全体で考える必要があると訴え続けて、2022(令和4)年度より、グループホーム事業所も参画し、くらしの部会となったことは成果であると言える。

相談部会でも、複雑な現状やニーズに合わせて研修や情報交換をしているところである。

山口県発達障害者コンサルテーション強化事業西部エリアマネジャー業務では、医療・保育・教育・福祉・企業から個人、組織へのご相談があり、委託を受けた効果があったと考えている。

### ・指定特定相談支援事業/指定障害児相談支援事業実績

- ・計画相談…新規サービス利用支援・継続サービス利用支援
- ・基本相談…相談一般
- ・指定一般相談…地域移行・地域定着
- ・認定調査

### ・研修

2019年度から山口県のサビ管・児発管研修に携わり、全国、県内の情報を得ながら、養成研修に携わってきた。今年度も基礎研修・更新研修の他、相談支援専門員基礎研修でも講義を担当し、



専門別研修で組み込まれる「意思決定支援」についてコアとなった研修の企画・運営にあたった。

さらに「児童分野研修」の新設にあたり、担当者として研修受講をし、2022(令和4)年度より、企画運営にあたる予定である。

支援の基礎研修でもある強度行動障害支援者養成研修では、引き続き、下関の担当チームに所属し、研修講師・ファシリテーターを務めた。一度の研修では現場での適切な支援の実践には至らないことも多い。下関市内でともに考え相談できる関係を築くことができるように今後も、今のニーズを見極めて研鑽を続けていきたい。

## ・地域連携

1) 関係機関ケース会議…計画案作成にあたり、学校、幼稚園、保育園との連携、特に就園、就学、進学、卒業の節目には特に重点を置いて会議を行った。昨年度に引き続き、ぽけっと開所当時からご利用の方の卒業が多くあり、大人の暮らし「生活介護」「就労」事業所との連携が必要であった。卒業後からの人生が長いこともあり、それで終わりではなく、さらに充実した生活のための理解の共有、支援の充実のために努めたい。

コロナ禍で、連携のための合同説明会の全体実施ができなかったことは課題として次年度十分協議する必要があると考えている。

2) 自立支援協議会 こども部会 会議 1カ月に1回

通所事業所分科会 1ヶ月に1回

\*リモート・会場でのハイブリッド実施

生活介護部会 会議 1か月の1回

\*障害者週間にあわせて啓発活動実施

⇒シーモールエキマチひろばとの協働

相談部会 2ヶ月に1回

事務局会議 2ヶ月に1回

3) 相談従事者研修相談「意思決定支援」担当…研修企画・運営

・サビ・児管基礎研修の講師・ファシリテーター

・サビ・児管更新研修ファシリテーター

4) 強度行動障害従事者研修の講師・ファシリテーター(光・山口・下関・宇部)

## ・地域啓発活動等

保護者のための研修会 リモート実施

きょうだい児のこと 県立大学藤田教授 河村親子

思春期のこと 川崎医療福祉大学 小田桐講師

地域の支援者のための研修会 リモート実施

特性理解

川崎医療福祉大学 重松講師

性教育

特別支援学校教員 國分先生

## 1. 家族・きょうだい児支援

体験格差解消事業 カヌー体験教室 実施

マウンテンバイク体験教室 野外調理 実施

### ・概要

#### (1) 関係諸機関との連携

相談支援・発達支援 (* 下記を除くすべてのケース)	関係機関職員への助言(機関コンサルテーション)	支援先	実支援機関数	21 機関
			延支援回数	60 回
	支援対象者	実支援人数	68 人	
		延支援件数	158 件	
調整会議		延支援件数	件	
相談支援・就労支援 (* 就労支援に重点を置いた支援が行われたケース)	関係機関職員への助言(機関コンサルテーション)	支援先	実支援機関数	5 機関
			延支援回数	9 回
	支援対象者	実支援人数	15 人	
		延支援件数	18 件	
調整会議		延支援件数	件	

#### (2) 普及啓発・研修

関係施設及び関係機関に対する普及啓発及び研修	主催又は共催で企画した研修	実施回数	13 回
		延参加人数	495 人
	外部から講師依頼を受けた研修(講師派遣)	実施回数	15 回
		延参加人数	324 人
	(再掲) 教育関係者との合同研修会	実施回数(内数)	12 回
		延参加人数(内数)	679 人

#### (3) 地域の関係諸機関の連携システムづくりに係るサポート

障害者総合支援法第 89 条協議会等への参加状況※	参加回数	4 回
他の協議会への参加状況	参加回数	0 回

※障害者自立支援協議会